

●世界ランキング/チャンピオンズレースと エントリーランキング

1999年までは、現時点の週から過去52週間(約1年)に出場した大会で得たポイントを、上位14大会だけ合計。その多い順に世界ランクが決まっていた。2000年からは、2つの世界ランクが並行している。一つは「チャンピオンズレース」と呼ばれるランク。年末の「テニスマスターズ・カップ」に向けて、年始は全選手が0ポイントでスタート。グランドスラム、マスターズ・シリーズの成績は、初戦負けでも加算され、すべて出場した場合、13大会となる。それに、他に出場した大会の上位ポイント5大会を加え、上位18大会の加算で順位を決める。グランドスラム、マスターズ・シリーズにすべて出場できない選手は、その数分だけ、他の大会から補い、合計上位18大会を算出する。また、従来のボーナスポイントは廃止され、ある回戦まで進出した選手は、どんな選手に勝ってきても無関係で、同じポイント数を得る。しかし、大会のエントリーとシード決定には、従来の過去52週の方法が採用され、これは「エントリーシステム・ランキング」と呼ばれる。現在の加算対象大会数は、上位18大会。

日本で世界ランキングと定義する場合、「チャンピオンズレース」を当てはめると、大半の選手がポイント0に近い年始には世界1位が山のようにおり、またまったく無名の選手ということもあり得る。また、同ポイントが数人いれば、世界1位が数人出現するおかしな状況が生まれる。実質的な世界ランクは、エントリーランキングと考えていいだろう。

●グランドスラム

国際テニス連盟(ITF)管轄。全豪、全仏、ウィンブルドン、全米の4大会。世界ランクの対象ではあるが、ATPツアーとは別管轄

●テニスマスターズ・シリーズ

男子の世界公式戦ATPツアーの最高峰大会。賞金総額平均200万^{ドル}以上で、伝統と格式で選抜された大会で、2007年は北米のパシフィックライフオープン、ソニー・エリクソンオープン、ロジャースカップ、ウエスタンサザン・ファイナンシャルグループマスターズ。欧州のマスターズ・モンテカルロ、マスターズ・ハンブルク、イタリア国際、マスターズ・マドリード、BNPパリバマスターズ(パリス市内)の9大会

●ATPツアー・インターナショナル・シリーズ(ゴールド・シリーズ)

マスターズ・シリーズの次に位置する選抜された大会。日本のAIGジャパンオープンは、このシリーズに属する。2008年は世界で9大会

●ATPツアー・インターナショナル・シリーズ

賞金総額40万^{ドル}以上の選抜された大会

●チャレンジャー・シリーズ

日本で言うツアー公式戦の下に位置する賞金総額2万5000^{ドル}以上12万5000^{ドル}。(宿泊費含む)以下の選抜された大会。日本で、2008年は全日本室内テニス選手権、鹿野チャレンジャー、ダンロップワールドチャレンジの3大会予定

●フューチャーズ・シリーズ

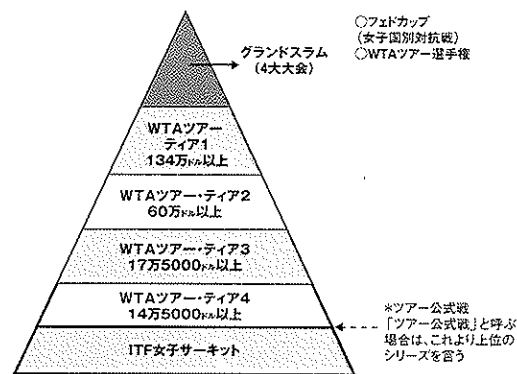
賞金総額1万^{ドル}以上1万5000^{ドル}。(宿泊費含む)以下の選抜された国際テニス連盟管轄の大会。1998年に創設されたシリーズで、日本では2008年、計12大会が開催予定

●デビスカップ

男子国別対抗戦。国際テニス連盟管轄。1年をかけて、世界一の男子テニス王国を決定。グループは5段階に分かれており、最上位が世界グループ16カ国。下のグループは、欧州・アフリカゾーン、アメリカゾーン、アジア・オセアニアゾーンの3地域に分かれる。各地域は、最上位のグループ1(1部)から最下部のIV(4部)までの4部制となっている。欧州・アフリカゾーン最上位グループ1上位4カ国に、他の2地域の最上位グループ上位各2カ国を加えた合計8カ国が、世界グループ初戦敗退8カ国と共に入れ替え戦を行う。日本は、2008年、世界グループの下のアジア・オセアニアゾーン・グループ1に所属

●テニスマスターズ・カップ

賞金総額445万^{ドル}。1999年までのATPツアー世界選手権(管轄ATPツアー)とグランドスラムカップ(ITF管轄)が合体。年末のチャンピオンズレース上位7人に、もしその中にグランドスラム優勝者がいなければ、その選手を加えて開催。2008年は中国・上海で開催予定



●世界ランキング/WTAツアーランキングと レースランキング

WTAツアーランキングは、毎週(4大会期間に2週おき)発表される世界ランキング。各大会のエントリー及びシード(ウィンブルドンを除く)は、このランキングですべて決定される。計算システムは、1997年から単純加算システム。シングルス上位17大会、ダブルス上位11大会の加算で、加算点の多い順に世界ランクが決まる。ポイントは、各大会の規模によって違う。2006年から、勝った対戦相手の世界ランクによって得られるボーナスポイントは廃止となった。1大会で進出した回数によって得られるポイントだけを選手は積み重ねていくのだが、2006年からは4大会とソニー・エリクソンオープンの5大会だけは、どんなに低いポイントでも上位17大会に加算されることになった。52週を終ったポイントは、順次、消えていく。レースランキングは、最終戦WTAツアー選手権に登場できるシングルス上位8人、ダブルス4組を決めるランキングで、年始は全選手が0ポイントでスタート。出場した試合で得たポイントを足していく。

●グランドスラム

国際テニス連盟(ITF)管轄。全豪、全仏、ウィンブルドン、全米の4大会。男子と異なるのはグランドスラムはWTAツアーも共同で管轄していること

●WTAツアー・ティア1シリーズ

賞金総額134万^{ドル}以上の選抜された大会。北米でパシフィックライフオープン、ソニー・エリクソンオープン、ファミリーサークルカップ、ロジャースカップ。欧州でジャーマンオープン、イタリア国際、クレムリンカップ。アジアでカタール・タルオープン、東レ・パシフィックの計9大会

●WTAツアー・ティア2シリーズ

賞金総額60万^{ドル}以上の選抜された大会

●WTAツアー・ティア3シリーズ

賞金総額17万5000^{ドル}以上の選抜された大会。日本で、2008年はAIGジャパンオープンの1大会

●WTAツアー・ティア4シリーズ

賞金総額14万5000^{ドル}以上の選抜された大会

●ITF女子サーキット

国際テニス連盟管轄のサーキット。世界ランク対象のWTAツアー・ポイントを獲得できる。賞金総額1万^{ドル}以上、10万^{ドル}以下の選抜された大会。日本では2008年、1万^{ドル}大会が6大会、2万5000^{ドル}の大会が8大会、5万^{ドル}大会が4大会、7万5000^{ドル}大会が1大会の予定

●フェドカップ

女子国別対抗戦。国際テニス連盟管轄。1年をかけて、世界一の女子テニス王国を決定。2000年から、最上位の世界グループは8カ国から13カ国に増加。1999年までの世界グループ II(2部)は廃止された。2001年から世界グループは16カ国に増え、対戦システムも変更になり、2002年からはテイクバックのホーム&アウェイ方式になった。2005年から再び世界グループは8カ国ずつの2部制を採用している。世界グループの下部は、欧州・アフリカゾーン、アメリカゾーン、アジア・オセアニアゾーンの3地域に分かれる。各地域は、最上位のグループ I(1部)とグループ II(2部)、グループ III(3部)の3部制となっている。日本は、2008年、世界グループ II に所属

●WTAツアー選手権

賞金総額445万^{ドル}。限られた選手しか出場できない最終戦。2002年までは年末レースポイントのシングルス上位16名、ダブルス上位8組だけが出場できた。2003年からシングルスは上位8名、ダブルスは上位4組に出場選手が限定された。過去にシングルスで日本選手が出場できたのは伊達公子と杉山愛の2人だけ。2000年までチェス選手権と呼ばれ、ニューヨークのマジソンスクエアガーデンで行われていたが、2001年から賞金総額を300万^{ドル}に増額し、ドイツ・ミュンヘンで開催。2002年から米園口サンゼルス、2006年からはスペイン・マドリード、2008年はカタール・ドーハでの開催予定